1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年11月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201088
法人名	社会医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム遊雅の郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名786 Aユニット (電話) 0996-21-4500
自己評価作成日	平成25年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は田んぼや周囲の山など、季節の移り変わりが身近に感じられるような環境にあります。施設の基本理念である「人間としての尊厳を守りやすさのある生活をしていただく」を基本にご家族と職員と一緒に支え合って生きがいを感じながら過ごしていただけるように支援していくようにしています。日中は、出来るだけ散歩に出るように声掛けしています。春と秋には、食事会を兼ねてご家族も一緒にドライブに出かけています。お土産を買うのを楽しみにされており、今後も継続していく予定です。また、職員は、出来るだけ認知症の勉強会をはじめスキルアップの為の研修に参加するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○周囲は静かでゆったりとした田園風景が広がり、家庭的な雰囲気が漂うホームである。母体医療法人や協力医療機関とも連携は緊密で十分な支援体制が整い、利用者やご家族の安心につながり信頼は厚いものがある。

○地域との交流も活発であり、運営推進会議は家族や地域住民、民生委員、消防・市役所の職員等関係者が多数参加して定期的開催されている。地域の行事への参加とともに、ホーム主催の夏祭り・敬老会・夕涼み会等に地域住民の方々に参加して頂いている。また、地域の高校での体験学習への協力や隣接する老人ホームとの交流、散歩の際の住民との会話、来訪される地域の親子会やボランティア、知人・友人との交流も頻繁に行われており、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。

○管理者や職員は連携して利用者の思いや意見を積極的に把握するように努め、ご家族とも来所時や年2回の家族会などで多くの意見を頂き、常により良い支援を目指した取り組みを展開し、利用者やご家族に安心を与えるホームである。

○管理者は朝夕の申し送り時の対話や月1回の職員会議での意見交換を通じて職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげるように努めている。職員同士の連携も良好で、管理者とともに利用者との関わりを大切にしている。

○管理者と職員は、利用者の現況を「できる・できないシート」を定期的に活用して介護計画に反映すると共に、計画の達成状況も日々評価して必要な対応を検討して利用者本位の支援に一体となって取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者お一人おひとりが、自分らしく尊厳を持って毎日を過ごせるように職員会議などで、方向性を確認、検討している。	ホーム独自の理念に沿って地域との連携を大切にして、家族や友人・知人と関わりながら利用者がその人らしく過ごすことができるように日々取り組んでいる。職員会議や各種の行事運営の際に理念の意義を振り返り、理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	行きつけの理美容を利用できるように支援している。清色ボランティアグループや運営推進会議委員の方など季節の物を持参していただいたり夏祭りに参加していただいている。	地域のお祭り等の行事や自治会・防災会議等には積極的に参加し、ホーム主催の夏祭り・敬老会・夕涼み会等に地域住民の方々に参加して頂いている。地域の高校での体験学習への協力や隣接する老人ホームとの交流、散歩の際の住民との会話、来訪される地域の親子会やボランティア、知人・友人との交流も頻繁に行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が、身近なところで相談を受けたり、元職員を通して相談を受けることもある。高校の文化祭に福祉教育の一環として招待参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や隣接の消防署の方にも運営推進会議に参加していただき事故報告をはじめ施設内状況を報告、防災などについて助言をもらっている。	会議は家族や利用者、地域住民、民生委員、消防・市役所の職員等関係者が多数参加して定期的開催されている。ホームの現況報告や行事・課題等について活発な意見交換が行われ日々のサービス向上に役立てると共に、災害や感染症などへの対応並びに認知症関連の検討が行われるなど、会議は有意義なものになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の時だけでなく諸手続きの仕方や相談にのってもらっている。	認定更新や入退所、事故報告、生活保護などの手続きの際に市担当者を訪問し、運営や利用者の状況についての確認・相談等に具体的に助言を頂くなど協働関係が築かれている。また、運営推進会議や敬老のお祝いなどの際にはホームに来訪頂くなど協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全対策委員会、抑制廃止委員会を設け、行動制限をすること無く安全に安心して過ごせるよ声のかけ方など支援の在り方について検討している。職員会議で、啓発をおこなっている。	職員は連携して利用者の表情や所作の観察を通じて「気付」及び「見守り強化」の徹底に努めている。毎月の「安全対策・拘束抑制廃止委員会」でも、繰り返し「相手の立場に立つての声かけ」や行動制限をしない支援の実現について話し合いを行い、職員会議を通じて周知を図っている。また、ご家族や近隣の人々とも連携を図り、安全に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援するための工夫にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体抑制だけでなく、言葉による抑制などが行われないよう抑制廃止委員会で職員の対応について気づいたことを話し合い対応について検討職員会議で啓発を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の福祉サービスを受けている方もおられ、解らないことなど相談にのってもらっている。薩摩川内市の社会福祉課の担当者にも助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に重要説明事項を基に確認しながら説明をおこなっている。また、家族会議の際にご家族から寄せられた質問などに対し説明をおこない、報告をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や毎月のお便りにご要望や気づかれたことなど無かったか声掛けをおこなっている。家族会の際に出された意見や要望を職員会議や運営推進会議で報告対応について検討している。	利用者からは日々の対話を通じて思いや意見の把握に努め、ご家族とは来所時や年2回の家族会の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。意見や苦情については職員が共有し、職員会議や運営推進会議で検討が行われ、速やかに対応・報告に努め、ホームからの家族会報告書や毎月のお便りでもご家族に連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事の進め方や次回に活かせるよう意見交換を行っている。職員会議などでも業務内容など改善面など検討している。	管理者は、朝夕の申し送り時やケアの際の対話の他に、月1回の職員会議での意見交換を通じて職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげるように努めている。また、法人の事務長も毎月ホームを訪れて職員と意見交換を行っている。具体的な事例では行事の運営方法や利用者の入浴介助方法の改善が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議の報告書を事務長に提出。職員の要望など検討してもらおうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会や市比野記念病院での研修会などにできるだけ参加できるよう調整している。また、職員会議で伝達講習を行うようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には、入っていないが、研修会などに案内をもらい交流が持てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ施設見学に来ていただき、困っていることや現在置かれている状況などをお聞きしながら施設での生活状況を見ていただいている。来所困難な場合は、訪問するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談時に現在置かれている状況や困っていることなどゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に現在おかれている状況を確認し、自施設で直ぐに対応できない場合は、他の事業所を紹介したり連絡などの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の花植えやもちつきなど一緒にしていただき、指導や助言をもらっている。手伝ってあげるよと催促される。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設生活状況を毎月のお便りや面会時に報告。入居者の思いなどを伝え支援の在り方を相談したり、協力を依頼することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行きつけの理美容院の利用支援やボランティアとして来所された際にゆっくり話をされる方やご家族だけでなく知人、友人の面会など自室でお茶を飲みながら過ごせるように支援している。	利用者のご家族や知人・友人などの来所時には、リビングや個室でゆったりと過ごせるように支援している。ご家族との電話や毎月のホーム便りにも時々利用者の手紙を同封するなど可能な対応に努めている。また、近隣の散歩をはじめ、地域の行事やドライブなどへの同行支援も、時にはご家族の協力も得ながら積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に散歩やレクリエーションに参加し、お互いが嫌な思いをさせないように職員が調整をおこなうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設を移られる際、施設での生活、支援状況など情報提供したり、様子伺いに行くこともある。退居後、相談の連絡を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情などから思いを理解するように努めている。	入所時のご家族からの聞き取り及び日常の対話や表情から思いや意向を把握するように努めている。また、「できる・できないシート」を活用して利用者の現状把握に努め介護計画に反映すると共に、必要な対応を検討して、ご家族とも十分に連携しながら利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時だけでなく、日頃の会話や行動を基にご家族や友人が来所された際に一緒に話をしたりして昔話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時から午前、午後、夕方、夜間を通して行動や思いなど記録するようにしている。食事量、水分量、排泄シートを利用しタイミングを図りトイレの声掛けなども行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎に職員間でモニタリングをおこない支援の在り方について検討している。入居者の日頃の意見やご家族の面会時に意見を聞きプランに反映するようにしている。毎月プランの達成状況や注意する点など確認している。	本人・家族の意向や希望、医師や看護師も含む関係者からの情報を基に職員で話し合い、きめ細かな介護計画を作成している。また、日々のケアは細かく項目設定された「達成努力状況」でチェックするとともに、3ヶ月毎にケアの経過を丁寧に評価して利用者の状態変化に対応した話し合いのもと、利用者本位の計画修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄状況などの健康状態だけでなく、行動など個別の記録に記載している。また、変化のあったことは、申し送り勤務に入る際に確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の職員の健康チェックでなく、訪問看護師による週1回のチェックが行われ、早めに医療が受けられるようにしている。外に出たい時には、散歩やドライブなどに出ることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容室に行かれる方もいる。消防署も隣接しており運営推進会議にも参加していただいたり、報告をしており、指導協力をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医について書面で確認し、出来るだけこれまでの診療が継続して受けられるように支援。リハビリや眼科などご家族にお願いする事もある。	利用前の受診の経過は、管理者がかかりつけ医と対話して情報収集し、内容を「インタビュー用シート」に記載して可能な限り本人・家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。協力医療機関の訪問診療をはじめ、ご家族とも連携して専門医の受診など必要な情報交換も十分に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、常に連絡が取れるようになっている。毎週、訪問看護師による健康チェックが行われ相談助言をもらっている。必要に応じ連携病院の指導、助言、協力をもらい健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状説明には、出来るだけ職員も同席し、治療方針や退院時期についても確認。入院中もできるだけ面会に行き、話をしたり状況を確認するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。家族会でも急変時の対応について話し合いを行った。体調不良時の病院受診や定期健診の結果など報告するようにしている。状況に応じ医師との面談の機会を設けている。	重度化や終末期のケアに関しては、入居時にホームが対応できる基本方針を文書で説明し、本人やご家族の意向を最大限尊重している。協力医療機関との連携を密に図り、状況の変化にも職員で情報を十分に共有し、ご家族にも医師との面談の機会の設定や病院受診の経過報告を適切に行うなど、ホームとして可能な限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AユニットにAEDを設置。使用方法について毎月の職員会議の際確認。普通救命講習会をおこなった。急変時や事故の際は連携病院の指示をもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署が隣接しており、運営推進会議にも参加してもらい、訓練の仕方など助言をもらっている。災害時には、地域の方への協力依頼も運営推進会議委員を通じお願いしている。</p>	<p>隣接する消防署と連携し、利用者と共に火災や自然災害を想定した避難訓練を年2回実施すると共に、運営推進会議並びに行政や消防署等出席の地域の防災会議や自治会総会にも参加して助言や協力をお願いしている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置、食料・水・衣類等の備蓄も問題なく、近隣施設との連携も十分に図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	汚染された時などなるべく他者に気づかれることが無いように声掛けや処理を行っている。記録物の管理について職員会議などで注意を促している。	接遇や倫理に関する研修を通じて職員は理解を深め、日常のケアの中で利用者の尊厳と権利を大切に声かけや言葉遣いを始めとする対応を心掛けている。また個人記録の仕方や保管場所、居室のプライバシーの確保にも十分気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でうまく言えない方など表情を観察するようにしている。また、自己決定できるような声掛けを行うようにしている。食事好き嫌いなど考慮し献立や調理工夫をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たい時や散歩に行かれない時は、一緒に行ったり、さりげなく見守りをしている。行事参加は、無理強いすることなく見守りができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時の着替えを一緒にしたり、爪切りや美容院を希望時に行けるよう支援したり、2ヶ月1回訪問理髪に来てもらっている。外出時におしゃれを楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく季節を感じられるように、時期の野菜を献立に入れるようにしている。年2回家族も一緒にドライブを兼ねて外食に行っている。	野菜の下ごしらえや食卓の後片付け等の利用者のできることを共に行い、食事を楽しみながら行う雰囲気作りに努めている。また、地産の季節の野菜や果物を活用しながら利用者個々の好みや健康状態に応じたメニュー・調理方法にも対応し、季節の行事食、誕生会の特別食、敬老会の盛り皿、クリスマス会のなべ料理、家族と一緒にの外食など多くの工夫を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月職員が献立を立て、関連施設の栄養士に確認してもらい指導を受けている。食事量、水分量を観察し調整している。月2回体重測定を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	薩摩川内市市民健康課の歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、食後の口腔ケアに活かしている。一人ひとりの能力に応じ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基にタイミングを図り声掛けや誘導を行っている。できるだけ、トイレでの排泄ができるよう支援。失敗してもプライドを傷つけないように対処するようにしている。	排泄パターンチェックシートの活用や適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた、個人の状態に応じた排泄の自立に向けた支援を行っている。これらの結果はケアプランにも反映し、排泄用品の選択等、個々に合わせた対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつシートで確認し、水分調整や運動など取り入れている。野菜をできるだけ摂れるよう献立を作成調理しており、状況に応じ下剤の調整もおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は無理強いせず、時間を置いたり、他の職員が声掛けして見る。入居者の希望に添えるよう調整をおこなうようにしている。	利用者の健康状態や安全面に十分配慮し、本人の好みや習慣に合わせてゆったり対話しながら入浴が楽しめるように支援している。石けんやシャンプーも個々の希望に合わせ、皮膚の状態も丁寧に観察して保湿クリームなども適切に活用している。入浴を拒否される場合には、ゆっくりと時間をかけて声かけを行い、利用者本位の支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、活動を促し、夕方は穏やかで安心した時間を過ごせるよう生活リズムを整えるようにしている。体調や希望を考慮し休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、本に手渡しや口の中に入れてあげるようにしている。必ず服薬確認。薬の効用や注意事項を常に把握できるように検温表や個々の薬袋で確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に応じ野菜の下ごしらえや雑巾縫いなどお願いしている。洗濯物畳など積極的にされ、昔話など会話も楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ、散歩に出るようにしている。ご家族も一緒に年2回ドライブを兼ねて夕食をしている。	敷地は日当たりの良い庭があり、自由に散歩できる環境である。利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って散歩や日光浴、花壇の手入れ、近隣のドライブなどを楽しんで頂いている。年に数回は地域の行事や季節の花見、ご家族と一緒にの夕食なども企画して、気分転換やストレス発散の機会として外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていることで安心される方には、ご家族と相談しながら持てるようにしている。買い物希望される方もいる。外出時は、自分の好きなものを買えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を大隊との希望者には、必要なものを購入支援。遠方の方にはできるだけ電話で話をしてくれるよう要請している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関などには、花を飾り季節感をですように心がけている。花の好きな方は、庭から取ってきて飾られている。</p>	<p>リビングなどの共用空間は、窓も大きく明るく、利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく、季節の花も飾られて落ち着いてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫されている。園庭には小さな菜園があり、建物の周囲は日光浴や散策ができるように、ウッドデッキや通路も整備され、ベンチやテーブルも配置されて静かに気持ちよくくつろげる環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下にはベンチが有り座布団を置いてあり、くつろいだり話をしながら外の景色を眺めておられる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染の椅子やドレッサーなど持ってきていただいたり、家族の写真を飾られている。カレンダーなど自分で色塗りしてもらい飾ってある。</p>	<p>居室のベッドや家具、洗面台はホームの準備品であるが、向きや配置は本人・家族の希望に沿って居心地よく過ごせるように対応している。また寝具やテレビ、日用品などは、本人やご家族の希望のものを自由に持ち込んでもらい、自分の部屋として落ち着いて過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る出来ないシートを確認しながら、出来ない部分を介助し介護用ベッド柵利用など排泄や入浴などが自分でできるように支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者お一人おひとりが、自分らしく尊厳を持って毎日を過ごせるように職員会議などで、方向性を確認、検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	行きつけの理美容を利用できるように支援している。清色ボランティアグループや運営推進会議委員の方など季節の物を持参していただいたり夏祭りに参加していただいている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員が、身近なところで相談を受けたり、元職員を通して相談を受けることもある。高校の文化祭に福祉教育の一環として招待参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や隣接の消防署の方にも運営推進会議に参加していただき事故報告をはじめ施設内状況を報告、防災などについて助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の時だけでなく諸手続きの仕方や相談にのってもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全対策委員会、抑制廃止委員会を設け、行動制限をすること無く安全に安心して過ごせるよ声のかけ方など支援の在り方について検討している。職員会議で、啓発をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体抑制だけでなく、言葉による抑制などが行われないよう抑制廃止委員会で職員の対応について気づいたことを話し合い対応について検討職員会議で啓発を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の福祉サービスを受けている方もおられ、解らないことなど相談にのってもらっている。薩摩川内市の社会福祉課の担当者にも助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に重要説明事項を基に確認しながら説明をおこなっている。また、家族会議の際にご家族から寄せられた質問などに対し説明をおこない、報告をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や毎月のお便りにご要望や気づかれたことなど無かったか声掛けをおこなっている。家族会の際に出された意見や要望を職員会議や運営推進会議で報告対応について検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事の進め方や次回に活かせるよう意見交換を行っている。職員会議などでも業務内容など改善面など検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議の報告書を事務長に提出。職員の要望など検討してもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会や市比野記念病院での研修会などにできるだけ参加できるように調整している。また、職員会議で伝達講習を行うようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会には、入っていないが、研修会などに案内をもらい交流が持てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできるだけ施設見学に来ていただき、困っていることや現在置かれている状況などをお聞きしながら施設での生活状況を見ていただいている。来所困難な場合は、訪問するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居相談時に現在置かれている状況や困っていることなどゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際に現在おかれている状況を確認し、自施設で直ぐに対応できない場合は、他の事業所を紹介したり連絡などの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜植えや草取りなど一緒にしていただき、何を植えたら良いか相談、良い苗を選んでもらった。料理も昔ながらの作り方など聞いて作ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設生活状況を毎月のお便りや面会時に報告。入居者の思いなどを伝え支援の在り方を相談したり、協力を依頼することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院の利用支援やボランティアとして来所された際にゆっくり話をされる方やご家族だけでなく知人、友人の面会など自室でお茶を飲みながら過ごせるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂はいつでも来られるような雰囲気づくりをしている。会話を楽しんだりお茶を飲まれたりしている。散歩やレクリエーションも嫌な思いをされないように職員が調整している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設を移られる際、施設での生活、支援状況など情報提供したり、様子伺いに行くこともある。退居後、相談の連絡を受けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3カ月毎にできる出来ないしーとをチェック。ご家族やご本人との話をしながら支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご家族や面会に来られた方と話をしながらさりげなく聞くようにしている。ご本人の思いを踏まえて体調などを考慮し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分量を記載。排泄シートを利用しタイミングを図りトイレの声掛けや誘導を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎に職員間でモニタリングをおこない支援の在り方について検討している。入居者の日頃の意見やご家族の面会時に意見を聞きプランに反映するようにしている。毎月プランの達成状況や注意する点など確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>健康状態だけでなく行動や思いなどを記録するようにしている。注意することや変更事項など申し送りノートに記入し全員が把握できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>毎朝、血圧、脈拍、体温を測定その後も異常があればチェックを行い状況に応じ病院受診するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議や夏祭りなど隣接の地区コミュニティセンターを利用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を書面で確認。ご本人やご家族の希望に沿って診療が継続できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、常に連絡が取れるようになっている。毎週、訪問看護師による健康チェックが行われ相談助言をもらっている。必要に応じ連携病院の指導、助言、協力をもらい健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状説明には、出来るだけ職員も同席し、治療方針や退院時期についても確認。入院中もできるだけ面会に行き、話をしたり状況を確認するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応について入居時に書面で確認。家族会でも急変時の対応について話し合いを行った。体調不良時の病院受診や定期健診の結果など報告するようにしている。状況に応じ医師との面談の機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AユニットにAEDを設置。使用方法について毎月の職員会議の際確認。普通救命講習会をおこなった。急変時や事故の際は連携病院の指示をもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、初期消火、通報、避難訓練など毎回消防署署員にも来てもらい指導を受けている。地域の方にも支援をお願いしてある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重するよう理念にも掲げてあり、入居者は、さんで呼ぶよう注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉ではっきり言えない方など声掛けの仕方に配慮して意思決定できるようにしている。レクレーションなど入居者の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の好きな時間に散歩に出られる方もいる。年2回のドライブなど家族の協力もあり楽しまれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時の着替えを一緒に準備したり、訪問理髪を2ヶ月1回来てもらっている。行きつけの美容院へ行けるよう支援もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回家族と一緒に外出に行っている。季節の野菜や果物をなるべく献立に入れるようにしている。野菜の下ごしらえや片付けなどもしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施行調査を参考にして職員が献立を立て、関連施設の栄養士に確認、指導を受けている。食事量、水分量を毎回確認し、調整。体重測定を毎月2回おこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	薩摩川内市市民健康課の歯科衛生士に口腔ケアの指導を受け一人一人の能力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用してタイミングを図り声掛けをおこなうことができるだけトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつシートを記録して牛乳やヨーグルト、水分の調整や繊維質の多い食材を取り入れ調整をおこなっている。散歩に出るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴したい日や時間などご希望に添えるように調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、眠れない時には、一緒に話をしたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝、昼、夜、利用者の顔と名前を確認しながら声を出して再確認して手渡しし、服薬確認をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえや食堂の掃除など体調に応じしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年2回のドライブ、外食会を入居者がとても楽しんでおられる。行き先が限られているので入居者に楽しんでもらえるよう今後も行き先など検討していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>行事等で外出した際は、買い物ができるように支援している。日頃は、買い物要望された際は、早めに対応するようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時に掛けられるよう調整している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>周囲を山や田園で囲まれておりゆったりとした中で、季節を感じ取ることが出来る。施設内は、毎日掃除をおこない気持ちよく過ごしていただけるよう心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂や廊下のベンチで会話したり、各部屋でゆっくり読書やテレビを視聴されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染の家具など持参されている。家族写真を飾り思い出話や自慢話に笑顔がこぼれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る出来ないシートやケアプランのモニタリングを職員間で確認し、個々に合わせて支援の仕方など検討している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない